各部位における腫瘤切除

●乳腺腫瘍の切除



(図3-1)



(図3-2)



(図3-3)



You Tube 動画閲覧

6.切開用電極による乳腺腫瘍切除(獣医科)」で検索

エンパイアニードル電極

シャフトの長さ:20mm 電極外径:0.6mm



【出力モードと出力】 CUT: 15~25 BLEND: 20~30 COAG: 20~30

症例解説:

犬の乳腺腫瘍の約半数が悪性であるので、根治するためには、外科療法(外科手術で乳腺を切除する)が第一選択になる。その他に、放射線療法やホルモン療法などもあるが、あまり期待できない。外科療法では、片側の乳腺を全て取るので腫瘍の取り残しが少なくなる。デメリットは手術侵襲が多くなる事で、使用する医療機器や術者の手技でカバーする必要がある。乳腺腫瘍では止血目的で電気メスやレーザーが使われるが、熱の侵襲により術後の疼痛が激しかったり、患部の癒合が遅かったりする。サージトロンでは最小限の熱で操作できるので、術者の手技次第で低侵襲で止血することが可能である。

治療の流れ:

イソジンで患部およびその周辺部の皮膚を消毒する。 乳腺腫瘍の状況に応じて手術範囲を決定する。切除範 囲を広めに設定する。エンパイアニードルを用い CUTモードで皮膚を切開する。(図3-1) このとき針 先を垂直に立て、先端のった部分だけ皮膚に当てて、 軽くなぞるように浅く切開する。血流のある皮下組織 はBLENDモードで通電部の側面を用いて、止血しな がら切開を進めていく。(図3-2) 犬の乳腺尾側端は 陰部手前まで伸びているので、できる限り切除する。 第5乳腺は外陰部浅腹壁動静脈を結んで切断すると鼠 径リンパ節も切除される。切除中に出血した場合はバ イポーラフォーセップにて部分的に止血する。(図3-3) 縫合においてはテンションが強いと皮下出血を生 じやすい。皮膚縫合部に段差があると痂皮ができて治 癒が遅れ、皮膚が薄いと皮下結紮部が埋まらず治癒が 遅れることもある。皮下を縫合する際、真皮断端を同 じ深さで拾いながら連続縫合(皮内縫合)することで、 これらの問題は細小にできる。術後は、エリザベスカ ラーを使用し、腹部はネット等で覆って自己損傷を防 ぎ、問題がなければ翌日退院できる。

Q&A

サージトロンはスプレー凝固ができないので、スプレー凝固ができる機種のどちらにするか迷っています。機種選定の指標があれば教えてください。

スプレー凝固を選択する必要はありません。